

## 8 今後の検討課題

本業務において、オリンピック・パラリンピックの開催期間を含む7月1日から9月16日までの主要競技会場周辺等における暑熱環境を測定した

2019年までの14地区に3地区を加えて、17地区すべてで予定通り7月1日から測定を開始した。次年度はオリンピック・パラリンピックの開催年であり、各地区の測定結果が一層重要となることから全地区で同時に測定を開始できるよう、調整を進め始める必要がある。また今年度は、2018年度にくらべ、7月当初は冷夏気味であったが、オリンピック期間に重なる7月下旬から一気に盛夏となり晴天日が多く猛暑が続いたことから有効なデータが得られた。期間後半は高温と平常程度を繰り返し、9月上旬には台風が数回接近した。このため、一部地区ではやむを得ず計画的な欠測とした他、海岸付近に設置した携帯型では機器不調が生じた。2018年、2019年と比較的高温の時期が長く、暑熱環境の評価として有効なデータが得られたことから解析結果などを関係者と共有していく必要がある。

さらに、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催時には、リアルタイムでのWBGT実況値や、予測値の提供が求められることから、技術開発を進めてきたが、リアルタイム運用を行う必要があることから、早くからシステムとしての習熟度を上げておく必要がある。

以上から、次年度以降の業務に当たっては、以下の点に留意する必要がある。

- ・引き続き主要競技会場周辺等において測定を行い、データの蓄積及び関係者との共有を行うこと
- ・測定開始を全地区で7月当初とし、暑熱環境の厳しい日のデータを測定する機会を増やすこと
- ・測定データのリアルタイムでの公表に向けて所要の準備を進めること。
- ・会場周辺におけるWBGTの予測の手法を確立し、リアルタイムでの公表に向け準備を進めること